

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4075400327		
法人名	ケア・サービス株式会社		
事業所名	グループホーム かえで		
所在地	〒807-1307 福岡県鞍手郡鞍手町大字室木801番地 0949-43-3900		
自己評価作成日	平成24年1月20日	評価結果確定日	平成24年02月16日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者とその家族、そして地域の人々。  
 私たちは地域に開かれた地域に愛される、みんなの集う場所として存在し続ける「家」であるよう努めています。

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://kohyo.fkk.jp/kaigosip/Top.do">http://kohyo.fkk.jp/kaigosip/Top.do</a>
----------	---

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

中庭の楓の大木は、8年前の開設時に、ホームのシンボルとして植えられ、歴史や季節の移り変わりを見守り、利用者や職員は、楓の下で四季を五感で感じ取り、穏やかに暮らす日々が続いている。代表は、地域の中でみんなが集う場所にと、誰でも訪ねやすい環境に配慮している。管理者と職員は、「触れ合いフェスタ」「徘徊ネットワーク」「夏祭り」に利用者に参加し、小学生との楽しい交流は、利用者の心を和ませ、一番の楽しみとなっている。利用者の健康管理は、月2回の往診と、24時間対応の主治医との連携で万全である。また、併設の小規模多機能ホームと常に連絡を取りながら、行事や避難訓練を共同で開催し、職員間で連携を図り、利用者や家族が安心して暮らし続けることが出来る、グループホーム「かえで」である。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 北九州シーダブル協会		
所在地	福岡県北九州市小倉北区真鶴2丁目5-27 093-582-0294		
訪問調査日	平成 24年02月08日		

サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当するものに印
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
59	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
61	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
62	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
64	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

## 自己評価および外部評価結果

(セル内の改行は、(Alt+)- + (Enter)- です。)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>理念に基づく運営</b>					
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「ぬくもり・やさしさ・安心 そして地域とのふれあい」の理念に基づいて、日ごろのケアに活かせるよう、地域のイベントへの積極的な参加やミーティング等を定期的に行い、全職員の意識の向上に努めている	「ぬくもり・やさしさ・安心・そして地域とのふれあい」というホーム独自の理念を掲げ、職員が理解し、利用者一人ひとりに寄り添った温かい介護サービスを実践している。	
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	季節に応じて、利用者と建物の周りを散歩したり近所の方と挨拶を交わし、交流に努めている。また、地域の小学生が年に数回訪れ、歌や太鼓の演奏や、カルタやおはじきなど昔の遊びを一緒にに行い、親睦を深めている	月に1度の老人会の神社の清掃に参加したり、ホーム便りを回覧板で地域に回覧し、情報の発信、共有に努めている。また、小学生との年2回の交流は利用者の大きな楽しみとなっており、開設8年目を迎え、地域との活発な交流が始まっている。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	散歩の際、近所の方への挨拶は欠かさないようにしている。区長の協力により、ホームの毎月の発行物を近隣の各地区に回覧板で回してもらい、地域の方のボランティア訪問の様子や認知症の方々の日々の暮らしを広報している		
4	3	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	奇数月(2ヶ月ごと)に運営推進委員会を開催。利用者家族・区長・民生委員・行政職員・地域の有識者等を交えて、併設の小規模多機能ホームと合同で実施し、経営状況、近況報告、問題事例の検討を行っている	2ヶ月毎に行なわれる会議には、家族、地域代表、行政職員等多数の参加がある。会議の中で、地域とのコミュニケーションを深める方法を協議したり、地域とホーム共同の、防災対策を協議する等、充実した会議である。出された意見は検討し、反映できるよう取り組んでいる。	
5	4	市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	町のふれあいフェスタなど福祉イベントに参加したり、2ヶ月に一度の運営推進会議に町役場の福祉課職員に参加していただいたりと、情報交換を行う機会を設け、協力関係を築くようにしている	町のふれあいフェスタへの参加や、運営推進会議への行政職員の参加、ケースワーカーとの連携等、相談や情報交換を行ないながら連携を図り、協力関係を築いている。	
6	5	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	夜間帯は防犯のために門や玄関を施錠をしている。「身体拘束廃止マニュアル」を作成し、研修やミーティングを通じて拘束をしない安全なケアのあり方について全職員の認識と理解に努めている	身体拘束廃止マニュアルを整備し、研修に参加し、ミーティング時に、勉強会を行なう等、職員の理解を深め、拘束や虐待のない支援をしている。また、玄関の鍵は、日中は施錠せず、利用者が自由に出入りできる環境である。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待についての理解を深めるために、積極的に研修などに参加し、事業所内のケアミーティングでスタッフが意識を共有するように努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	6	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日常生活自立支援事業の成年後見制度に関する研修に参加し、ケアミーティングにて知識の共有に努めている	現在、制度の該当者はいないが、制度についての資料を準備し、勉強会で学び、利用者、家族が必要とした時にいつでも支援出来る体制がある。	
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所時には事前にホームの見学をお勧めし、代表者・管理者・ケアマネージャーが本人や家族の不安や疑問点について十分な説明を行って、安心して契約が結べるようにしている		
10	7	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議には、家族代表、担当者会議には利用者・家族に参加していただき、意見や要望を出せる機会を作っている	カンファレンスに家族に参加してもらい、意見や要望を聴く機会を設けている。また、玄関に意見箱を設置し、苦情受付窓口を掲示し、面会時には声かけし、コミュニケーションを図り、意見を出しやすい環境を整えている。	家族の心情を察し、家族の悩みや心配事の相談を受け入れる体制と、家族間で活発に交流できる場を設ける等の工夫が望まれる。
11	8	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月、2ユニット合同ミーティングを行い、個々の意見を出してもらい、出来るだけ意見を反映できるように努めている	職員会議を毎月開催し、活発な意見が出され、会議が長時間に及ぶこともある。利用者一人ひとりを大切に思う気持ち、介護に対する情熱、職員間のチームワークに支えられた充実した会議となっている。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員のケア能力や資格取得など個々の努力や実績を参考に給与の昇給などを行なっている		
13	9	人権尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を發揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	職員の採用にあたっては、年齢や性別の制限は無く、個々の得意な分野を發揮してもらい、出来ない部分は出来る人が補うように配慮している	勤続年数の長い職員が多く、職員間の連携と特技を活かした適材適所の配置で、職員一人ひとりが生き生きと働ける環境である。また、職員の採用は、年齢、性別、経験等の制限はなく、人柄、思いやりの心、優しい気持ち等を重視している。	
14	10	人権教育・啓発活動 法人代表及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	施設長は常日頃からミーティングの会話の中で利用者の人権尊重の大切さを話す機会を設け、職員に理解してもらうように取り組んでいる	施設長は、日常的にミーティングの中で、利用者の尊厳を守るための介護サービスのあり方等、きめ細かく具体的に説明し、職員の人権についての意識付けに努めている。	
15		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実践と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	各職員のケア能力に応じて研修や資格取得を受ける機会を設け、スキルアップに努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	利用者の空き状況の確認や高齢者見守りネットワーク参加など、同業者と相互関係、協力を通じて交流する機会を積極的に探る取り組みをしている		
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
17		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者の安心と安全を確保するための信頼関係作りの為、まずは本人の思いや要望等を傾聴する事に努めている		
18		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の思いや要望を傾聴し、信頼関係の構築を図り、サービスの内容やタイミングを計ることに努める		
19		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	スタッフは今持つ知識と技術を活用し、対応の問題や困難な問題等の解決方法を探し、利用者や家族が必要とする支援を見極める事に努めている		
20		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	スタッフも利用者との共同生活を過ごす事で、介護させていただく立場と己を知り、同等目線、立場でお互い支えあっている		
21		本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族が利用者に対する思いを、普段のコミュニケーションや担当者会議を通じて理解し、ケアに取り入れることに努めている		
22	11	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	以前住んでいた故郷や馴染みの関係や大切なもの、また昔の話を傾聴し、共有する事で、記憶が風化しないように接している	利用者が、話される昔の話を、とことん聴いて共有に努めている。また、年に数回、遠くに住む親戚が訪ねて来たり、手紙、電話での交流を大切にすると等、出来るだけ大切な人や場所との関係継続の支援に努めている。	
23		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	スタッフは利用者同士の相性を共同生活の中で把握し、利用者関係を良好に築く手助けをおこなう。また居室に閉じこもりがちな利用者支援として、出来るだけリビングに共有のコミュニケーションの場を設けるようにする		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用期間中の写真で手作りのアルバムを作成し、本人、家族にお渡しする。必要に応じて相談・支援にお応えするようにしている		
<b>その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
25	12	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの人格を尊重して会話や行動で希望や思いを把握するように努めている。困難な場合は今までの生活歴や家族からの情報を活かし、本人本位になるように努めている	職員は、利用者と会話し寄り添う事で、利用者の立場に立ってその思いの把握に努め、出来るところから支援を始めている。また、アセスメントやベテラン職員、家族からの情報で、意向の把握に努め、本人本位のケアを目指している。	
26		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者のペースに合った生活、暮らし方が出来るように本人、家族から話を聞いて、出来るだけ理解するように努めている		
27		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者の心身の状態に応じて、一人ひとり安心して過ごせるよう、言葉・表情・バイタルの把握に努めている		
28	13	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月全スタッフによるケアミーティングを行い、情報を共有している。担当者会議では、本人・家族・スタッフ・ケアマネ参加で開催し、現状に応じた介護計画を作成している	担当者会議に本人、家族が参加し、丁寧に要望を聴き取り反映させながら、3ヶ月毎に作成している。また、日頃から家族と連絡を密に取りながら、状態変化があった場合は、その都度、介護計画の見直しを行なっている。	
29		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	一時間ごとの個別記録と、毎日のケアプランの実施状況の実施表を記入している。また、一日2回、職員のシフト交代時にユニット毎の申し送りを行なっている		
30		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	病院への送迎や買い物の同行、散歩等、利用者の希望に応じた柔軟な支援が出来るよう努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	公共の図書館の利用を支援したり、地元の小学生との交流できる機会を設け、親睦を深める		
32	14	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者・家族の希望を伺い、本人の健康を支援できるように、かかりつけの病院での受診を支援している	利用者、家族の希望を聴きながら、かかりつけ医と協力医療機関を選択してもらい、主治医による往診や、受診支援等、十分な医療連携が取れるよう努力している。	
33		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	外来受診や往診時に日頃の健康管理等を相談している		
34		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	体調が急変した際の受診の相談等を、電話にて相談している		
35	15	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	早期に本人や家族、関係医療機関等で話し合い、利用者や家族が安心してケアを受けられるように努める	利用者の重度化に伴い、ホームで出来る事、出来ない事を家族に説明し理解してもらい、いつまでもホームで、暮らす事が出来るよう職員全員で支援している。また、十分に家族と話し合いながら、重度化に向けた方針の共有と確認を行なっている。	
36		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	怪我や病状悪化したときは、マニュアル等を活かしたりかかりつけの医師に連絡・指示を仰ぐなど、直ちにしかるべき処置を取るようになっている		
37	16	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	緊急事態が発生した時の対応(避難経路や避難場所)を、避難訓練などを通じて全社員の把握に努めている	避難訓練は併設の「ひいらぎ」と共同で定期的実施し、職員間の役割分担や避難経路、避難場所の確認等を行なっている。また、非常食や飲料水の備蓄も万全である。	非常災害時には、地域の方の協力は不可欠であり、定期的な避難訓練に参加してもらい、夜間を想定した避難訓練と合わせ、利用者が安全に避難できる協力体制の確立を期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
38	17	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりに合った声掛けや対応で、個々の大切な尊厳やプライバシーを守るように日々努力している	職員は、利用者の目線にたった気配りで、利用者の明るい笑顔と穏やかな表情を引き出している。利用者のプライバシーを損なわないよう職員間で声をかけ合い、ホームの暮らしが、温もりや、優しさに、包まれるように努力している。	
39		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者と過ごす中で、出来る限り本人の傍で話を聞く時間をもったり、一緒にいる事でわかる意思表示や意思決定を大切にしている		
40		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの体調や生活習慣に合わせ、出来る限りの希望を伺うようにしている		
41		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の希望や趣味を出来るだけ叶えながら、季節感・彩りなどを考慮して更衣や整容の支援をしている		
42	18	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食欲が少しでも出るように、食材や味・彩りに気を配り、一人ひとりが食べやすくなるよう調理・配膳をしている	菜園で収穫した野菜も使用しながら、新鮮な季節の食材で調理したヘルシーで美味しい手料理は利用者の一番の楽しみである。利用者が職員と会話を楽しみながら美味しく食べる様子は、和やかで、微笑ましい食事の光景である。	
43		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の食事の嚥下能力や必要な栄養や消費エネルギーを考慮して、一人ひとりに合った支援をしている。水分摂取量をケース記録に必ず記入し、一日の水分量の把握に努めている		
44		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	特に朝と夜は、必ず個々に合った口腔ケアを実施している(うがい・ブラッシング・義歯預り洗浄 等)		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	19	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	各利用者の排泄パターンを把握して、その方に合った時間と、必要によっては用具を使って心地よい排泄の支援をする	利用者の排泄パターンを把握した職員による細やかな声かけや誘導により、リハビリパンツから布パンツに進化する等、利用者の自信回復に繋がっている。	
46		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便チェック表を作り、毎日の体調や水分の摂取・食物繊維の多く含む献立の提供、場合によっては医師と相談の上、服薬による排便などで定期的な排便を促すようにしている		
47	20	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	一人ひとりの希望や体調に応じて、週2～3回を目安に入浴を支援している	入浴は、利用者の健康状況を観察しながら定期的実施している。入浴を拒否される利用者に対しては、時間をずらしたり、職員が交代で声かけし、連携をとりながら、楽しい入浴になるよう工夫を重ねている。	
48		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活パターンや体調に応じて、時間や寝具を選んで休息や睡眠を支援している		
49		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	各利用者別に処方箋のファイルを作成している。また、処方に変更があった場合は申し送りノートに書いて全スタッフが把握できるようにしている		
50		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	イベント・ドライブ・買い物など、希望や体調に応じて支援している		
51	21	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者の気分や体調、気候によってホーム周辺を散歩したり、家族の協力を得て外出や外泊などを支援する	散歩時に土筆を摘んだり、日常的な買い物、ウッドデッキでの日光浴、ドライブ等、出来るだけ利用者の希望に応じられるよう努力している。また、家族に相談し、協力しながらの外出、外泊の支援をしている。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	グループホームにて預り、病院受診や生活用品等で使用したときは、必ず個人の現金出納帳に記載している。一人ひとりの希望に応じて利用者と一緒に化粧品や食べ物の購入等も支援している		
53		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望に応じて家族・知人への電話希望や手紙の発送を支援している		
54	2.2	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングに手作りの大きな日めくりカレンダー(月・日・曜日)を設置している。リビングの大きな窓からウッドデッキの先の中庭が見え、天気の良い日は洗濯物や布団干し等も行なっている	開設8年目を迎え、落ち着いた雰囲気建物は周りの景色に溶け込み、家庭的でバリアフリーの行き届いた安全な造りである。また、広いウッドデッキでは、天気の良い日に利用者が外気浴等して過ごし、穏やかに居心地良く過ごせる共用空間となっている。	
55		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングの席は利用者の希望や行動パターンを考慮して、自然と落ち着く場所を提供するようにしている		
56	2.3	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室にはタンス、テーブルなど各自好みの家具が置かれている。壁には家族の写真や似顔絵、近隣の小学生からの手紙や折紙などが貼られ、利用者を和ませている	居室は窓が広く開放的で、木材を多用し、温かみのある造りとなっている。家族の協力を得ながら、利用者の使い慣れた馴染みの物を持ち込んでもらい、家族の写真や絵を飾り、家庭的で居心地良く過ごせる居室になっている。	
57		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内はバリアフリーになっており、廊下には手すりを設置。居室にも利用者の必要に応じて壁やベッドへ手すりを設置し、安全に移動・移乗できるようにしている		